

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	第1回 ふじみ野市 一般廃棄物処理基本計画 市民検討委員会	
開催日時	令和7年1月18日（火） 開会時刻 午前10時00分 閉会時刻 午前11時30分	
開催場所	ふじみ野市役所本庁舎 A301会議室	
出席した者	<ul style="list-style-type: none"> ・市民検討委員会委員 高原委員長、鎌田副委員長、西村委員、関口委員、笠谷委員、永田委員、関根委員、大野委員、能登原委員 ・事務局（環境課） 坂本課長、斎藤係長、長谷部主事、青木主事 	
会議の議題	1 会議 <ul style="list-style-type: none"> (1) 開会 (2) 会長あいさつ (3) 多摩市におけるごみの有料化に関する視察報告 (4) 議題 一般廃棄物処理基本計画の進捗状況 リチウムイオン電池の適正排出および回収と処理について (5) その他 (6) 閉会 	
会議の公開又は非公開の別	公開	
会議の非公開の理由	—	
傍聴人の数	—	
会議の内容	別紙のとおり	
会議資料	別添のとおり	
事務局	市民活動推進部 環境課	
議事の確定	確定年月日	令和7年1月3日
	記名押印 又は署名	役職名 委員長 高原 サチ子

別紙

発言の要旨

発言者	発言の要旨
高原委員長	議題「ふじみ野市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。
事務局	○配布した【資料2】に基づき説明
高原委員長	食品ロスには大変力を入れてくれたと感じている。
西村委員	食品ロスの組成調査結果から食べ残しは少ないが直接廃棄が多い印象。作りすぎることはあまりないが、買いすぎて残ることが多いのではないか。買いすぎに対する啓発を行っていくと効果があると思う。
笠谷委員	買いすぎず、頼みすぎないこと。食べ切れる範囲で頼むことが大事だと改めて感じている。 1530 運動の啓発品を冷蔵庫に貼ることで、買い物に行く前に冷蔵庫の中を確認するようになり、買いすぎを防止できている。
高原委員長	ふじみ野市民は意識が高いことがとてもよく分かった。この高い意識に啓発するには工夫が必要だと感じている。 剪定枝のチップ化について改めて説明をお願いしたい。
事務局（課長）	越谷市のごみ処理施設には、枝をチップ化する設備が整っており、市としても実際に施設を視察しているがとても良い設備である。しかし現状の環境センターの施設規模では新たに導入することは難しいと感じている。今後、市内にも取り組める企業が出てくれたら大変嬉しく思う。
関根委員	企業に対する食品ロスの啓発はできないか。収集側の立場から見ると事業系の食品ロスはとても多く感じる。また、世界的にみると日本は食品リサイクルがあまり進んでいない。現在は厨芥類をもやごみとして処理しているが、食品は水分を多く含んでいるため燃焼効率が悪くなる。 飲食店に作りすぎなどの啓発はできそうだが、注文を控えるような啓発は難しいと思う。

発言者	発言の要旨
高原委員長	確かにバイキング形式の食事で残してしまうことがある。
大野委員	海外では具体的にどのような取り組みをしているのか。
関根委員	海外は広大な土地があるため食品を埋め立てることが主流であり、有機物であるため土壤へのリサイクルを主としていることが多いと認識している。燃やさないことで環境への負荷が低減しているが、日本は土地の広さや気候などの条件が異なるため工夫が必要である。
高原委員長	議題「リチウムイオン電池の適正排出および回収と処理」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	○配布した【資料3】に基づき説明
高原委員長	収集の立場から見て意見はあるか。
関根委員	リチウムイオン電池は発火の危険があるため、収集員も対応に困っていると聞いている。さいたま市の収集も一部行っているが、さいたま市のほうが発火の報告は多く受けている。一袋ずつ確認することも難しいため、防ぎようがないと感じている。 ふじみ野市で火災が発生した場合、受け入れ先に志木地区衛生組合が挙がるが、受け入れる可能性が低いといった話を聞いたことがある。
事務局	緊急時の受入先は「埼玉県清掃行政研究協議会」に加盟している自治体に埼玉県が割り振るため、受入先がないという状況に陥ることは恐くないと考えている。しかし、他市へのごみの運搬や処理委託、施設の修繕など、莫大な費用がかかることが見込まれる。
笠谷委員	乾電池袋を新しくする場合、袋のデザインを改めて考えてほしい。具体的には文字を減らしてイラストを増やすなどを検討してほしい。
永田委員	袋には「火災に繋がります」などを明記するのはどうか。 また、外国人への対応は私たちもとても難しいと感じている。 ふじみ野国際交流センターでは翻訳などは出来るが、本人に伝えたいことを正しく理解してもらい、ルールを守って生活してもら

発言者	発言の要旨
	うのは、当たり前のように難しい問題である。三芳町の事例では、外国人を雇用した企業の代表が1ヶ月間生活を共にし、ごみ出しルールを身につけてもらったという話を聞いたことがある。雇用責任を問うことも必要かもしれない。
西村委員	通常、何か損害が発生した場合は責任の所在が明らかになることが多いが、ごみ問題は責任を明らかにすることは難しいため、本人たちのモラルに任せるしかなく、解決は困難であると思う。
関口委員	リチウムイオン電池が具体的に使われている製品を明確にして、周知してほしいと感じている。
能登原委員	まずは自身の家庭内での教育が必要であると感じている。
鎌田副委員	近年はリチウムイオン電池が使われているのか、乾電池が使われているのか分からぬ製品が多く、利用者も理解することなく使っているのではないか。そのため、私自身がそのような製品を処分する際は、とりあえず粗大ごみに出すといった対応をとっている。 分別することの意義を教育する場がとても重要だと感じている。私自身も子どもの頃から紙の分別について教わった記憶がある。 また、食品ロスの話に戻るが、単身世帯が多い地域ほど食品ロスも増えるのではないか。家族世帯のほうがごみの量が増えるため、分別をきちんとするケースが多いと思う。 ごみ減量に関しては、来年度の「家庭の資源物とごみの分け方・出し方」にリユース企業について再掲載してほしい。スペースの都合で見開きのページが難しければ粗大ごみのページなどに掲載しても良いと思う。
笠谷委員	高齢者にもわかりやすいよう、製品のイラストなどを多く載せてほしい。
事務局	現在来年度の「家庭の資源物とごみの分け方・出し方」の作成を行っている段階で、1ページ目の見開きページに大きくリチウムイオン電池についての記事を掲載する予定である。可能な限り文字を減らしてイラストを使い、製品等も紹介できる内容を検討

発言者	発言の要旨
	している。
笠谷委員	安全な収集や処理を第一優先にするために、リチウムが使われている可能性がある製品は全て有害ごみとして周知するはどうか。
事務局	収集の立場では確かにリスクは減るが、環境センターで手選別の作業をしている職員の負担が増える可能性があることから、引き続き検討していく。
高原委員長	その他事務局から意見や補足等あればお願ひします。
事務局	<p>外国人対応で困っている場合は環境課にも気軽に相談していただいて構わない。</p> <p>リチウムイオン電池は発火の危険があり、環境センターの設備や金額面での心配も大きいが、何よりも収集車が走行中に発火してしまう等の事故が起きると人命にも関わってくる問題であるため、そこを一番心配している。今回の話は、この場に来ている委員の皆さんがあれひ地域に話を広めていただければと思う。何卒よろしくお願ひしたい。</p> <p>事業系ごみについては展開検査を行い、リサイクルできるものを廃棄物として搬入していないか抜き打ちで検査している。検査の結果、再生可能な雑がみなどが混ざっている事例が多く、改善を促している。</p> <p>ふじみ野市の強みの一つに、ニューエナジーふじみ野株式会社という食品廃棄物のリサイクルを行う事業者がある。コスト面での課題はあるが有効に活用していくことが今後、食品リサイクルへの対策になるとを考えている。</p> <p>一般廃棄物処理基本計画市民検討委員会は年に一度、会議の場を設けているが、来年度は「一般廃棄物処理基本計画」の見直しおよび策定の年となる。委員の委嘱期間は令和8年9月30日までとなっているが、計画の策定は年度をとおして行う。そのため、基本的には今の委員の皆さんで引き続き進めていきたいと思っているので、ご理解いただければと思う。</p>
西村委員	議題とは関係ないが、条例を見ると今回の会議は委員長が招集するものではないか。環境課長名で開催通知が来ている。議題内容の選定も含めて次回から対応してほしい。

発言者	発言の要旨
高原委員長	他にご意見がないようであれば、今日の会議はこれで終了とさせていただきたいと思います。閉会につきましては、鎌田副委員長にお願いします。
鎌田副委員長	以上を持ちまして『令和7年度ふじみ野市一般廃棄物処理基本計画市民検討委員会第1回会議』を終了いたします。 ありがとうございました。